

- * 私たちが信じる聖書の神は「義」である方、すなわち絶対的に正しい方。また、「聖」なる方、すなわち絶対に罪を犯さない方である。そして神は人格を持っておられ、知識・感情・意志を表すことができる方である。その神が私たち人間をご自身に似せて良いものとして造られた。これが神の愛の基になっている。しかし、人間は誰一人神の愛に応えられず、命令を聞かず、無視したり、逆らったりしてしまった。「義」であり、「聖」である神はこれを見逃すことができない。しかし、愛の神は私たちをその死に値する懲らしめから逃れることができるように、唯一の方法を示された。
- * 「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。」(Iヨハネ4:10) 「なだめの供え物」とは、神の怒りをなだめるためのいけにえ、犠牲のことで、御子イエス・キリストがその犠牲になるためにこの世に送られたのである。人間の罪は他の人が負うことができない。まして、全人類の途方もなく大きな罪を負えるのは全く罪のない神の御子イエス・キリストしかいなかったのである。この方が十字架について犠牲となり私たちの罪の身代わりになってくださることによって、それを信じる者は罪が赦されるのである。「ここに愛があるのです。」(4:10) 神の愛は完全な罪の赦しの中に現れているのである。
- * そんな神の愛に私たちはどのように応えることができるか。ルカ2:8~20にある御子の誕生と羊飼いの物語から学ぶ。第1は、「神の愛」とは何かを知ること。「きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。」(ルカ2:11) 神はイエス・キリストを救い主として世に送ってくださったことを聖書から、また説教などから知ることである。第2は、それを確かめて、自分の物にすることである。羊飼いたちはみ使いから聞いたことを確かめにベツレヘムへ行き、確かに救い主を見届けた。彼らは喜んで、心からこのプレゼントを感謝して受け取った。第3は、すぐ人に知らせることである。羊飼いたちは、喜びを自分たちだけのものにせず、人々に伝え、分かち合ったのである。
- * 神の愛は私たちが何かをしたから与えられるのではなく、まず神の方から一方的に私たちに与えられている。その神の愛の現れが御子イエス・キリストである。